

粟津温泉の旅館のと屋の隣の苔むした石段を登った所に、粟津温泉の守り薬師、養老山大王寺がある。その大王寺から、奈良時代に創建され源平盛衰記にも登場する白山神社の横の道を通り、おつしよ公園へまで続く約60分ほどの散策路沿いの木陰にひっそりと佇むのが、苔むしてそれぞれ異なった仏の慈愛をたたえた温顔を見せてくれる西国三十三番観音(※)の石仏たち。粟津では、いつの時代からか、「祈りの小径」と呼ばれていて、迷いごと、悩み事があると、石仏たちに祈るのだそうだ。

仏像というと運慶や快慶といった有名仏師の作品だけが大事にされがちだが、無名の石工たちが彫った石仏にも素晴らしいものがたくさんある。昔の仏教信仰では、貴族や大名、有力武士、裕福な商人だけがお堂に安置された仏像を礼拝することを許され、多くの庶民は苦勞してお金を工面し、石工やお坊さんに建ててもらい、病氣治癒、延命長寿を願ったのだ。

そうした石仏を前にして、石に刻まれた仏様の表情を見ると、長い時空を超えて、それを寄進した人、作った石工たちと対話ができるような気がしてくる。

※西国三十三箇所とは、近畿2府4県と岐阜県に点在する33ヶ所の観音霊場の総称。三十三という数字は観音菩薩が衆生を救うとき、33の姿に変化することに由来し、西国三十三箇所の観音菩薩を巡礼参拝すると、現世で犯したあらゆる罪業が消滅し、極楽往生できるとされる。その始まりは養老2年(718年)に遡り、その後270年余り廃れていたのを、南加賀とも縁が深い花山法皇が再興し、以降人々に広まっていった。江戸時代以降、全国各地に巡礼巡りの組織がつくられ、それがミニチュア化して、一つの寺院や山に三十三観音石仏が作られていった。その石仏を第一番から順に第三十三番まで参拝すれば、実際に西国三十三ヶ所を巡礼したことと同じ功德があるとされている。



60分の巡礼の旅へ出かけよう。

粟津温泉 祈りの小径。

無名の石工が、石にその魂を刻印した石仏に思いを馳せる

写真・文 タカヤマギョウタカ 一緒に歩いた人 水口裕子さん

第1番 那智山青岸渡寺 如意輪観音菩薩
祈りの小径、西国33番観音の第一番は、大王寺から白山神社へと続く石段の前にある如意輪観世音菩薩。宝珠(如意宝珠)と敵を打ち砕く輪宝(法輪)を持ち、人々の苦しみを除き、願いをかなえ、特に長寿、安産、魔除に功德があるとされている。ちなみに西遊記の孫悟空が持つ如意棒が思い通りのはたらきをしてくれるように、如意宝珠はあらゆる願いが意のままにかなうという不思議な珠なのだそう。祈りの小径には他にも如意輪観音菩薩がおいでになるが、この第1番の観音様の手を頬にあてて思慮する表情が好きだ。この考えるポーズの手は思惟手(しゆいしゅ)と呼ばれ、智慧の象徴でもあり如意輪観音の特徴である。